

建築工事関係
工事記録写真撮影要領
(建築工事編)

工事記録写真撮影要領

1. 目的

この要領は、工事工程写真及び完成写真について定めるものである。

2. 工事工程写真撮影要領

a 撮影の対象

- ・工事写真は、工事着手前の状況から完成までの各工程全般に亘って対象とする。特に不可視部分の施工状況について留意する。
- ・各工程毎の検査写真は、監督員立会状況を含め撮影する。撮影対象の標準を別表（1）に示す。

b 撮影方法

（1）撮影条件の明示

写真の一部には、別掲に示す小黒板に工事名、工事項目、撮影位置及び撮影対象の設計寸法（略図）、撮影年月日を記入し、文字が判読できるよう撮影する。

（2）寸法の明示

撮影対象には必要に応じ基準線（下げ振り、水糸等）を明示し、主要寸法が読み取れるように目盛り（スタッフ、スチールテープ、リボンテープ等）を入れて撮影する。

c 写真の整理

（1）監督員への提示

撮影写真を監督員に提示して、確認受けた後アルバム、又はA4版カラープリント等で編集する。

（2）写真の大きさ

写真の大きさは原則として、サービス版（カラー75m/m×110m/m）とする。

（3）アルバム

写真は（社）建設業協会推奨品工事手帳A4版、又はフリーアルバムに整理する。

（4）提出

工事完了後、写真のアルバム1組を監督員に提出する。

（5）電子媒体写真

・必要な文字、数量等の内容の判断ができる機能、精度を確保できる撮影機材を用いるものとし、（有効画素数は100～300万画素程度）、（色彩はカラー）、（大きさは1,200×900ピクセル～2,000×1,500ピクセル程度）とし、通常の使用条件のもと3年程度顕著な劣化が生じないものとする。

・デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、監督員の承諾を得ること。

（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課 営繕工事写真撮影要領 平成31年改定参照）

d 写真撮影の留意事項

（1）撮影は工程の進捗に合わせて実施するため、撮影の時期が大切であり現場に直接たずさわる工事担当者は施工計画に基づき撮影に日時、方法、工事状況等を周知し、要領に応じて撮影とする。

（2）工程の進行による後日の取り直しが困難となるため、撮影後写真の良否を確認する。

3. 完成写真撮影要領

a 撮影の対象

- (1) この要領は建築工事及び関連工事（別途発注の電気設備工事、機械設備工事、木製建具工事、畳工事）を対象とし、土木工事は、北海道土木工事共通仕様書施工管理基準によるものとする。
- (2) 完成写真は、工事完成状況全般を撮影し撮影対象は別表（2）に示す。

b 写真の整理

- (1) 監督員への提示
撮影写真を提示して、確認を受けた後アルバムに整理する。
- (2) 写真の大きさ
写真の大きさは原則として、サービス版（カラー75m/m×110m/m）とする。
- (3) アルバム
写真は（社）建設業協会推奨品工事手帳A4版、又はフリーアルバムに整理する。
- (4) 整理 製本 提出
写真は、配置図又は平面図を作成し撮影方向を入れ、アルバムと一緒に整理して1部を提出する。
- (5) 電子媒体写真
必要な文字、数量等の内容の判断ができる機能、精度を確保できる撮影機材を用いるものとし、（有効画素数は100～300万画素程度）、（色彩はカラー）、（大きさは1,200×900ピクセル～2,000×1,500ピクセル程度）とし、通常の使用条件のもと3年程度顕著な劣化が生じないものとする。

C 写真撮影の留意事項

- (1) 撮影は技術の熟練者にあたらせ、広角レンズの使用等充分配慮する。
- (2) 写真は、同時工期の関連工事（別途発注の電気設備工事、機械設備工事、木製建具工事、畳工事）も完了した写真を撮影する。
- (3) 写真には、仮設物、人物、車両、小黒板等が入らない写真とする。

別表(1) 建築工事

工種	項目	撮影対象	要領及び注意事項	備考	
1	共通事項	敷地 解体及び移設 安全対策	<p>全景 隣接敷地等を含む</p> <p>着工前</p> <p>施工状況</p> <p>解体材搬出状況</p> <p>解体材捨場</p> <p>完了</p> <p>交通対策</p> <p>労務管理</p>	<p>敷地の現況を各方向から全体を撮影する。 (既設建物 工作物等を入れる) 既設建物、工作物等は工事中に損傷を与えた場合等の証拠となるため必要と思われる範囲を撮影する。</p> <p>解体前写真を撮るときは施工完了後に施工比較が出来るように周囲の風景等を入れて全景を撮影する。</p> <p>使用機械の機種を入れて撮影する。解体材の捨場の状況は監督員の指示による。解体材は、分別解体の状況が解るように撮影する。</p> <p>運搬車両ナンバー、会社名が確認できるように撮影する。 搬出経路がわかるような写真を撮ること。</p> <p>捨場の看板を撮影する。捨場の中で荷卸状況を撮るときは搬出時と同一車両となるよう心掛ける。</p> <p>整地完了後に着工前と同一方向で撮影する。</p> <p>現場内外で行なっている安全対策については要領に基づいて撮影する。(誘導員、バリケード、安全ロープ、誘導鏡、出入口・付近道路等の清掃状況等)</p> <p>足場、積載重量の表示、現場内の安全通路、消火器等の設置状況、安全委員会のミーティング状況、その他労働安全規則で、定められている必要事項を撮影する。</p>	
2	仮設工事	縄張り ベンチマーク 遣り方	<p>全景</p> <p>全景</p> <p>施工状況</p>	<p>監督員又は関係者の立会を受けた後撮影する。 附属建物及び浄化槽等の施設も併せて縄張りする</p> <p>移動のないよう周囲を養生し、設計基準高さを明示する。</p> <p>遣り方の布板部分に設計G Lからの高さを明示する。</p>	

工 種	項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考	
		仮 囲 い 仮 設 道 路 仮 設 排 水 材 料 置 場 監 督 員 詰 所 表 示 板 等	完了 施工状況 完了 着工前 施工状況 転 圧 出 来 高 完了 水 替 え 放流先の 状 況 全 景 全 景 全 景	移動する恐れがある時は逃杭を打ち、撮影する。 測定は現場専用の基準巻尺を使用する。 全景を撮影する。 施工中の状況を撮影する。 高さ、延長、工種が判るよう全景を撮影する。 設計図に明示されている場合は、特に注意すること。 着工前の全景を撮影する。 仮設道路は、本工事中に原型がなくなるため、各工程及び仕上げの状況が判断できるように留意する。 使用機種が判るよう撮影する。 砂利の粒径等を撮影する。 ランマーの作業状況を撮影する。 (300m/mで1回転) 砂利厚、道路幅(砂利敷幅)の出来高をロット、栈木等を用いて撮影する。 全景を撮影する。 設計図に明示されている場合は特に注意すること。 使用機種及び台数が判るよう撮影する。 鎮砂箋等の処理状況を撮影する。 集水柵(釜場)は基礎の影響範囲(45°の角度内)をさける事。 危険物の貯蔵箱必要と思われる材料置場の養生及び全景を撮影する。 表示板等で監督員詰所が判断出来るよう留意する。 工事標識、確認済の表示板、労災関係、道路使用の許可証、施工体制図等を掲示し全景を撮影する。	
3	土工事	地 割 り 山 止 め	施工状況 敷 地 養 生 等	石灰等で線引きし全景を撮影する。 敷地全景を撮影する。 既設の建物、隣接地の建物、道路等の安全・養生の状況を撮影する。	

工 種	項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考
		山止め材 打ち込み	地下埋設物を撮影する。(例えば、水道等に損傷を与えた場合、後日に証拠となる等必要と思われる範囲を撮影する。 矢板等架設材の形状、寸法を撮影する。 組立順序、工法に注意し使用機器を入れて撮影する。 矢板等の数量が確認出来るよう留意する。	
		完 了	全景を撮影する。 土圧の測定器及び測定状況(1日2~3回)を撮影する。	
		抜 取 り	使用機器を入れて撮影する。 抜取り後の砂のてん充状況を撮影する。 使用機材が判るように撮影する。	
	根 伐	施工状況	根徹底300m/m程度をすき取りとして状況を撮影する。 直接基礎、ラップルの場合は支持層が確認出来るように撮影する。	
	埋 戻 し (盛 土)	杭間ざらい 床 づ け 完 了 施工状況	作業状況を撮影する。 ランマー等の転圧状況を撮影する。 遣り方を入れ全体を撮影する。 使用機器及び転圧状況(300m/mごとに締め固め)を撮影する。外周は長て方向が見えるように、内部は各スパン内で回数ごとに撮影する。	
	整 地	完 了 全 景	山砂、根伐土の流用等の工法を確認できるように撮影する。 全景を撮影する。 全景を撮影する。 建物周辺2mを水はけよく整地し状況を撮影する。	
	残 土 処 分	土砂搬出	使用機材を入れて撮影する。 残土積込車輻と捨場の荷卸の車輻は同一車輻や運搬経路の写真を撮影すること。	
		捨場状況	周囲の風景残土搬入前捨土均し、捨土均し後の状況を撮影する。	
		完 了	捨土前と同一方向で全景を撮影する。	

工 種	項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考
4	地業工事 (1)くいで打業	くいで打	<p>養生 特記がある場合はその状況を確認できるように撮影する。 (1) 騒音防止養生 (2) 油滴飛散防止養生 (3) 振動防止 隣家周辺の騒音、振動の測定状況を撮影する。</p> <p>搬入 くいで降しの状況を撮影する。 くいで頭に通し番号を記入し本数が確認出来るように撮影する。</p> <p>集積 くいでが多種にわたる場合は種別毎に集積する。(径、長さ、継ぐいで別) くいでは2段以上堆積しない。 くいでを集積は支持位置に角材を水平に置く。</p> <p>材 料 くいでメーカー、製造年月日、寸法、J I S表示などを撮影する。 本数を明確に撮影する。</p> <p>形 状 くいで先の形状(閉そく、ペンシル等)を撮影する。</p> <p>くいで径長 くいで径はロットを使用する。 くいで長さは1m毎荷スプレー等で目盛をつけ数字を記入し撮影する(くいで先端を0とし、くいで頭を全長とする) 撮影位置はくいで頭の斜め上から撮ると全体が写りやすい。</p> <p>打 設</p> <p>くいで芯 水系及び定規を使用し芯出し状況を撮影する。 監督員の検査を受けた後全景を撮影する。</p> <p>打設機械 機種を明確に撮影する。 機械器具、動力源、配線等は十分に点検する。</p> <p>アースオーガー オーガードリルの径、長さを撮影する。 掘削長さをスプレーでオーガーに表示しスケールをあてて撮影する。</p> <p>打設状況 本くいで撮影は、全本数を原則とする。</p>	

工 種	項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考
		掘削残土 やっこ 建 込 打 止 め 記 録 溶 接 材 継手の状況 完 了 切 断 切 揃 くい頭補強 芯づれ補強 完 了 キヤップ 全 景	<p>オーガーの残土搬出又は敷均し状況を撮影する。</p> <p>径、長さを撮影する（長さは4 m程度を限度とする）</p> <p>直角2方向からトランシット、下げ振り等で垂直の確認をする。</p> <p>設計図書の深さ及び沈下量を得るまで打ち込む。</p> <p>上記によらない場合は監督員と協議し記録する。</p> <p>くいに表示した目盛又は数字を撮影する。</p> <p>最終貫入量及びリバウンド量の測定状況を撮影する。</p> <p>全本数を記録する。</p> <p>商標を撮影する（アーク被覆溶接棒 J I S - Z 3 2 1 1）</p> <p>施工状況を撮影する。</p> <p>上ぐいと下ぐいにスキ間及びズレが生じないように水分、泥土、塗装等をふきとること。</p> <p>溶接の仮づけ又は二層目の本づけ後スラグの除去及び錆止め塗布をし状況を撮影する。</p> <p>全景を撮影する。</p> <p>パイルカッターを使用して、カットラインより10 cm程度上部より斫りを入れ状況を撮影する（補強バンドで養生する）</p> <p>鉄筋の切断箇所は監督員の指示による。</p> <p>切揃後全景を撮影する。</p> <p>補強を要する箇所を全て撮影する。</p> <p>補強方法及び施工状況を撮影する。</p> <p>ペースごとに補強状況が解るようにスケールをあてて撮影する。</p> <p>くい穴のキャップの状態を撮影する。</p> <p>完了状況を捨てコン打設後墨出しをし、各通り毎に全本数が解るように撮影する。</p>	

工 種	項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考
	その他 (2)ラップ地業 (3)切込地業 (4)捨コン	埋 戻 全 景 型 枠 出 来 形 景 コンクリート 埋 戻 全 景 施 行 状 況 完 了 全 景 施 行 状 況 打 完 景 墨 出 し	セメントミルク工法等特殊な工法については監督員の指示による。 土工事の例による。 型枠寸法はロット等を使用して撮影する。 打設状況を撮影する。 出来高寸法のロット等を使用して撮影する。 土工事の例による。 水締め状況（300m/mで1回転圧）と使用機器を撮影する。 厚さ、幅をロット等を使用して撮影する。 取付状況を撮影する。 ポンプ車が入るように撮影する。 厚さ、幅をロット等を使用して撮影する。 各通りごとに全景を撮影する。	
5	鉄筋工事	材 料 (配筋) 基 礎 ベ ー ス 地 中 梁 補 強 筋 布 筋 そ の 他	角材を敷き並べ種別ごとに撮影する。 (必要に応じ養生する) 種別ごとのプレートを撮影する。(JIS表示、製造番号、寸法、工場がわかること) 継手の位置、定着、かぶり、みだれ、錆、結束状態、スペーサーブロック等の状態を確認し撮影する。 下記に列記する箇所を要領よく撮影する。 (寸法、断面、配筋の異なるものの全てを対象とする) 主筋、配筋間隔、ダイヤ筋、フック等。 ベース筋のみ単独に種類別に撮影する。 主筋本数の確認(端部、中央部)、スターラップの間隔を撮るときマグネット画鋸等を鉄筋につけ、ロットを当て確認できるように撮影する。 継手、定着、幅止め筋、フーチングとの取り合いを撮る場合も同様。 スリーブ貫通部、その他開口部。 縦、横筋の間隔、継手、定着。 工種ごとの施工状況及び組立て完了の全景を撮影する。	

工 種	項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考
	躯体	柱筋	主筋、フープ筋、ダイヤ筋、頭部処理、柱幅、スペーサー、主筋の折り曲げ位置、継手位置、間隔、かぶり等を撮影する。	
		梁筋	主筋（短部、中央部）、スターラップの間隔、継手、定着、スペーサー幅止め筋、吊上筋、スリーブ等の補強筋等を撮影する。	
		壁筋	縦横筋の間隔、開口部廻りの補強筋、中止め筋、スペーサー等を撮影する。	
		床版筋	縦横筋の間隔、上下筋の間隔、折れ曲げ位置、開口部廻り等の補強筋、継手、定着、スペーサー、出隅入隅の補強等を撮影する。 各設備の配管、スリーブ等取付後全景を撮影する。	
		階段	主筋、踊り場配筋、手摺、補強筋、スペーサー等を撮影する。	
		屋上	床版は躯体と同じ。 ドレン廻り、パラペット、庇、煙突、補強筋等を撮影する。	
	その他	その他	工種毎の施工状況及び組立て完了の全景を撮影する、	
		圧接	圧接状況、圧接試験体の抜き取り状況の撮影。 圧接部のふくらみ、形状、軸心のくい違い曲がり等に注意して撮影する。	
		圧接試験体	公的試験期間以外で、監督員の承認を得て試験を行なう場合は試験状況等の前後の比較が出来るように撮影する。 径及び完了全景を撮影する。	
		その他	監督員の検査を必ず受けることとし、試験成績を要求されるものについては、現場代理人又は、関係職員の立会を要するものとする。	
6	コンクリート工事	型 枠	資材搬入後の集荷状況を撮影する。 剥離材及び塗布状況を撮影する。	
		材 料	墨出しの状況と完了後の全景を撮影する。	
		墨 出 し		
		建て込み	柱枠、壁枠、床版枠、階段枠、煙突枠等	

工 種	項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考
		<p>打 設</p> <p>縮 め 付 完 了 取 外 し 材 料 試 験</p> <p>型枠の養生 打設状況</p> <p>陸 不 直 し 打 継 ぎ</p> <p>出 来 高</p> <p>ベ ー ス 地 中 梁 土間及び床版 柱 梁 壁 床 版 パラペット 階段手摺</p> <p>そ の 他</p> <p>塩 分 試 験</p>	<p>を撮影する。 垂直、水平の確認作業の状況（下げ振り、トランシット等）を撮影する。 作業状況を撮影する。 枠幅寸法、建入寸法、全長を撮影する 作業状況を撮影する。 特殊な場合は試し練りをする。 テストピースの採取状況及び試験値の値を撮影する。 圧縮試験の撮影は試験体1本毎に写す。 (監督員の立会いを原則とする。) 打設前の清掃及び散水状況を撮影する。 ポンプ車、バイブレーターの使用状況を撮影する。 鉄筋の上を直接歩行しないこと。(道板足場の使用状況を撮影する) タッピングの状況を撮影する。 打継ぎ位置及び打継面を撮影する。 下記に列記する、箇所を要領よく撮影する。 高さ、幅 高さ、幅、断熱材の厚さ 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 厚さ、断熱材の厚さ 高さ、厚さ 高さ、幅、厚さ 工種ごとの施工状況及び完了全景を撮影する。 ゴミ、型枠材、ジャンカの処理等に注意して撮影する。 生コンの採取の状況を撮影する。 特記に指定された試験方法が確認出来るように撮影する。</p>	

工 種	項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考	
7	鉄骨工事	アンカーボルト 柱底ならし 工場加工 錆止め 鉄骨建方 高力ボルト コンクリート 埋込試験	材 料 セット状況 施工状況 材 料 原寸検査 溶接状況 材 料 施工状況 材 料 建方状況 部材取付 溶接状況 建方完了状況 材 料 施工状況 埋込部分の 状 況 超音波探傷 試験状況	長さ、径を種別毎に撮影する。 ねじ山の保護及びセット状況を撮影する。 ねじ山の出、二重ナット、座金等の取付け状況及び無収縮セメントを使用した柱底ならし仕上げの状況を撮影する。 完成時に見えなくなる場所は特に注意して撮影する。 鋼材、溶接棒等の使用材料の品種、規格等を撮影する。 原寸検査の状況、テープ合わせ等の状況を撮影する。 主要部分の開先状況、溶接状況、仕上がり状況を撮影する。 塗料の規格、商標等が読み取れるよう撮影する。(工場、現場毎) 工程毎の使用状況及び使用した数量が判るように撮影する。(工場、現場毎) 現場でのタッチアップと2回目塗装の判別が出来るように撮影。 主要部材の寸法等を撮影する。 機械をいれて、建方の状況及び計測の状況を影する。 梁、母屋、胴縁等の取付状況を撮影する。 現場での溶接状況を機材を入れて撮影する。 全景を撮影する。 規格、商標等を入れて撮影する。 予備締め、本締め、マーキングの状況を撮影する。 鉄骨、鉄筋の組立状況を撮影する。 機材及び試験状況及び監督員又は関係職員 の立会いの状況を撮影する。	
8	ブロック及びALCパネル工事	集積状況	屋外に集積の場合は、養生状況を撮影する。		

工 種	項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考	
	(1) ブロック工事 (2) A L C パネル工事	縦やりかた ブロック積 壁まぐさ A L C パネル取付	材 料 やりかたの 状 況 施工状況 完了状況 施工状況 集積状況 材 料 下地材 施工状況 完了状況	規格、寸法等を入れて撮影する。 1日の積上げ高さ、モルタルのてん充状況、配筋及び継手の状況を撮影する。 縦筋上下の溶接終了後溶接長さと同隔を撮影する。 全景を撮影する。 型枠、配筋の状況を撮影する。(鉄筋、コンクリート工事の要領による) 屋外に集積の場合は養生状況を撮影する。 寸法、規格、商標等を入れて撮影する。 下地材の寸法、間隔等を撮影する。 取付金物、目地モルタル等の施工状況を撮影する。 全景を撮影する	
9	防 水 工 事	防水層下地 アスファルト 防 水	下地の状況 材 料 施工状況 立上り 部分等の 施工状況	各層の進行に気をくばり、写す時間帯を逃がさないようにする。 室内の場合は、煙のため対象が不鮮明になるため注意する。 下地の仕上り状況、隅角部の丸面の状況を撮影する。スラブの含水試験状況も撮影する。 使用材料の品種、規格、商標等を入れて撮影する。 各層毎の施工状況を工程に従い何層の防水工事を施工したか判断出来るように撮影する。 材料毎の継手重ね長さ、及び塗布状況を撮影する。 各層毎、材料毎の継手、重ね長さ及び塗布状況を撮影する。 立上り寸法、増し張り、アスファルトコーキングの状況を撮影する。	

工 種	項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考
	防水層押え (保護) (伸縮目地) (押さえコンク リート) シーリング	完了状況 材 料 施工状況 完了状況 材 料 施工状況 材 料 施工状況 完了状況 材 料 施工状況	全景を撮影する。 ポリエチレンフィルムの規格、商標等を撮影する。 重ね長さ等の施工状況を撮影する。 保護モルタルの施工状況、及び厚さを撮影する。 全景を撮影する。 寸法、規格、商標等を撮影する。 取付状況を撮影する。 溶接金網の寸法、規格等を撮影する。 溶接金網の取付及び重ね長さの状況を撮影する。 立上り部分の配筋状況及び押さえコンクリートの打設状況を撮影する。 金ゴテ押えの工程毎の施工状況を撮影する。 全景を撮影する。 品種、規格、商標等をいれて撮影する。 下地、プライマー、バックアップ材、てん充状況を撮影する。	
10	石 工 事	材 料 取付金物 取付状況	品種、規格、商標等をいれて撮影する。 鉄筋、結束線及び引き金物等の施工状況を撮影する。 裏込モルタルのてん充及び取付状況を撮影する。	
11	タ イ ル 工 事	タイル張り 検 査	材 料 施工状況 完了状況 たたき検査 接着力試験 品種、規格、商標等をいれて撮影する。 各工法の工程毎の施工状況のほか、下記に列記する状況を撮影する。 下地モルタルの施工状況 タイル張り付け状況 タイル引付け金物の状況 目地詰め状況 全景を撮影する。 検査の状況を撮影する。 機材及び試験状況及び監督員又は関係職	

工 種		項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考
				員の立合を撮影する。(3個以上100㎡に1個)	
12	木 工 事	軸組、小屋組 床 組	材 料 継手、仕口及 び組立状況 構造金物の 取付状況 工 法 野タルキ、 野 地 板 の 施 工 状 況 建 方 完 了 状 況 材 料 施 工 状 況	規格、等級、寸法等を入れて撮影する。 かすがい等金物取付完了後の状況を撮影する。 継手、仕口、組立て状況を撮影する。 乱継の状況、根太、野地タルキ等の間隔の状況を撮影する。 全景を撮影する。	
		防 腐 剤	取付状況	規格、商標等を入れて撮影する。 共通仕様書及び建築基準法による塗布状況を撮影する。(コンクリート等の接着面を 木材取付前に防腐剤を塗布した状況)	
		窓、出入口枠	下地組の 状 況	防腐剤、補強金物、指示金物、飼いもの パッキンの状況を撮影する。 下地材の寸法及び間隔、釘打の状況を撮影する。(各設備関係の写真も十分注意して撮影させる)	
		下 地	完了状況 含水率の 測 定	全景を撮影する。 測定の状況を撮影する。	
13	屋 根 工 事	鉄 板	材 料	材質、種別、規格、商標等を入れて撮影する。	
		下 ふ き	施 工 状 況 完 了 状 況	重ね長さ、留付状況を撮影する。 全景を撮影する。	
		ふ き 方	施 工 状 況	つり子の位置、とめ方、間隔、巻はぜ締め付け、軒先、棟修めの状況を撮影する。 全景を撮影する。	
		折 版	完 了 状 況 材 料	・ 板厚、形状寸法、商標 ・ タイトフレームの厚さ幅の寸法、商標	
		施 工	タイトフレーム 折 版	・ 取付状況 (溶接又はボルト締) ・ 施工状況 (長ての方向に継がないこと)	

工 種		項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考
			ボルト 完了状況	<ul style="list-style-type: none"> 面戸板の取付状況 ボルトの締付状況（ボルト間隔600m/m以下） 全景を撮影する。 	
14	金 属 工 事	金 属 製 品 軽 量 鉄 骨 (天井壁下地)	材 料 裏込モルタル 取付状況 完了状況 材 料 吊ボルト、 野 縁 間仕切壁 開 口 部 溶 接 部 完了状況	<p>製品の形状、寸法等を撮影する。 裏面防錆処理及び結露防止処理状況を撮影する。</p> <p>モルタルのてん充状況を撮影する。 取付アンカーの状況、間隔を撮影する。 全景を撮影する。 寸法、規格等を撮影する。</p> <p>野縁の間隔、吊ボルトの振止め補強の状況を撮影する。 スタッドの間隔、振止めの状況を撮影する。</p> <p>開口部の補強の状況を撮影する。 錆止め塗布状況を撮影する。 全景を撮影する。</p>	
15	左 官 工 事	下 地 処 理 工 法 モルタル塗り モルタルてん充	材 料 調 合 施工状況 施工状況 壁 の 施工状況 床 の 施工状況 木下地の 施工状況 完了状況 施工状況	<p>混合材、接着剤等の使用材料の品種、規格、商標等をいれて撮影する。 調合（容積比）の状況を撮影する。 下地処理の状況を撮影する。 各工法の工程毎の施工状況のほか、下記に列記する状況を撮影する。</p> <p>下塗り、目ぐしをかけ乾燥した状況 中塗り、定規スリの状況 上塗り、金ゴテ押えの状況 モルタルの圧送、モルタル塗込み、タッピング定規均し、金ゴテ押えの状況を撮影する。</p> <p>ラス及びアスファルトフェルト張り等の状況を撮影する。 下地は共通仕様書の木工事の項による施工状況による撮影をする。 全景を撮影する。 開口部廻りのてん充状況及び無収縮セメントの使用状況を撮影する。</p>	

工 種	項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考	
16	建具工事	木 製 建 具 アルミニウム・鋼製 建 具 取 付 け	建具の骨組 建具の骨組 施工状況	フラッシュ建具の骨組及び合板の厚さ、品 種、規格等を撮影する。 フラッシュ建具の骨組及び断熱材のてん 充状況を撮影する。 木製、アルミニウム、鋼製建具の取付状 況を撮影する。 アンカーの間隔、溶接等の状況を撮影する。	
17	塗装工事	素地ごしらせ 塗 り 工 法	材 料 施工状況 施工状況 合成樹脂 調合ペイント 吹付タイル 完了状況	品種、規格、商標等をいれ又、使用した 数量がわかるように撮影する。 下地の違いごとに下地ごしらせの状況、 塗り回数ができるように撮影する。 各工法の工程毎の施工状況のほか、下記 に列記する状況を撮影する。 ローラ塗り及びはけ塗りの施工状況を撮 影する。 下塗り状況 中塗り状況 上塗り状況 シーラ塗状況 下吹状況 上吹状況 仕上材塗状況 全景を撮影する。	
18	内装工事	工 法 断 熱 材	材 料 接 着 剤 施工状況 完了状況 材 料 施工状況 補修状況 敷込み状況 発泡ウレタン	品種、規格、商標等をいれて撮影する。 塗布状況を撮影する。 工程毎の施工状況を撮影する。 全景を撮影する。 品種、規格、商標等をいれて撮影する。 柱、梁、壁、床版等の施工状況及び厚さ を撮影する。 穴、設備関係の取合部分等の補修状況を 撮影する。 土間コンクリートの敷込み状況及び厚さ を撮影する。 厚さ、施工状況を撮影する。	

工 種		項 目	撮影対象	要 領 及 び 注 意 事 項	備考
19	舗装工事			土木工事撮影要領による	
20	排水工事			同 上	
21	植栽工事			同 上	
22	雑 工 事	砂 利 敷 緑 石 黒板・家具 等 改 修 及 び 模 様 替	施工状況 完了状況 材 料 施工状況 完了状況 施工状況 改修前の 状 況 施工状況	床づけ、締固めの状況を撮影する。 幅及び厚さの状況を撮影する。 寸法、品種、規格等をいれて撮影する。 切込み砂利、コンクリート等の寸法及び 縁石の取付状況を撮影する。 全景を撮影する。 骨組の組立及び取付状況を撮影する。 対象施設の各面を全景で撮影する。 施工状況、完了状況は、各工事の要領に より撮影する。	

完成写真

別表（2） 建築工事

区 分	撮 影 対 象	要 領 及 び 注 意 事 項
建 築 工 事	外部 建物外部4面及び屋上 その他付帯施設等一式 内部 主要各室2面以上 共用部分	○主要各室で同一のもの（例えば学校教室）が多数の場合は、代表的な室を撮影する。 ○配管シャフト及び階段下のもの入れ等は省略する。